（別紙様式4）

令和8年10月31日

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
せいとく介護こども福祉専門学校	昭和51年4月1日	河合　宣孝	〒　064-0811 （住所）　札幌市中央区南11条西8丁目2番47号 （電話）　011-512-1321
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地
学校法人西野学園	昭和43年1月10日	前鼻　英蔵	〒　063-0034 （住所）　札幌市西区西野4条6丁目11－15 （電話）　011-661-6514

分野	認定課程名	認定学科又は専攻科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
教育・社会福祉	専門課程	こども福祉科	平成 6(1994)年度		平成26(2014)年度

学科又は専攻科の目的	教育社会福祉との綿密な連携を通じ、より実践的な職業教育の質と確保に組織的に取り組み、卓越した実務の知識・経験に基づく高度で専門的かつ実際的な知識・技術等を身につけ、教育社会福祉施設に必要な実践的な能力を育成するための専門課程を創設することを目的とする。
学科又は専攻科の特徴（取得可能な資格、中退率　等）	取得可能資格：保育士（両コース）、幼稚園教諭（保育士・幼稚園教諭コース）、幼児体育指導者2級（両コース希望者）、こども環境管理士（両コース希望者）、 手話検定（両コース希望者） 中退率：0%（R7年度）　※6．8%（R6年度） 経済的支援制度：せいとく学費サポート制度、高等教育の修学支援制度対象

修業年限	昼夜の別	全課程の修了に必要な総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2　年	昼間	114　単位	36 単位	67 単位	10 単位	0 単位	1 単位

学生総定員	学生実員(A)	留学生数(学生実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率
160 人	13 人	0 人	0 %	0 %

就職等の状況

■卒業者数 ©	11	人
■就職希望者数 (D)	11	人
■就職者数 €	11	人
■地元就職者数 (F)	11	人
■就職率 (E/D)	100	%
■就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)	100	%
■卒業者に占める就職者の割合 (E/C)	100	%
■進学者数	0	人

■その他

特になし

（令和　　7 年度卒業者に関する令和８年５月１日時点の情報）

■主な就職先、業界等

（令和7年度卒業生）

幼稚園、保育園、児童養護施設、児童発達支援施設等

当該学科又は専攻科のホームページURL	https://nishino-g.ac.jp/

企業等と連携した実習等の実施状況（A、Bいずれかに記入）

総単位数		114 単位
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	10 単位
	うち企業等と連携した演習の単位数	0 単位
	うち必修単位数	106 単位
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	4 単位
	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	0 単位
	（うち企業等と連携したインターンシップの単位数）	0 単位

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	3 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	0 人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	0 人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	0 人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	1 人
計		4 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね５年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	4 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

〇教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携

（1）教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針及び教育課程編成委員会等の位置付け

a.教育課程編成委員会を年2回以上開催しているか。	している
開催日時実績	第1回　令和8年7月24日　13:00～14:30/第2回　令和9年2月下旬予定
b.教育課程編成委員会に、以下①～③の類型に該当する企業等委員が参加しているか。 ※①から③において、①又は②から1人、③から1人が委員として参画している場合、「している」を選択。 ※①又は②から1人、③から1人が委員として参画していない場合、「していない」を選択。	している
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）	
②学会や学術機関等の有識者	
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員	
c.学校の教育課程編成の責任者が委員参加しているか。	している
d.教育課程や学生の学修成果等に関する現状や情報、データを教育課程編成委員会の委員に提示しているか。	している
e.教育課程編成委員会の議事を記録し、学内回覧等しているか。	している
f.企業等委員の意見を教育課程編成見直しに反映しているか。	している
g.次の教育課程編成委員会に、教育課程編成の見直し結果等を報告しているか。	している

（特筆すべき工夫等）

（2）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和8年10月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
角　谷　　毅	札幌わかくさ幼稚園	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	③
柴　野　邦　子	光星はとポッポ保育園	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	③
瀬　戸　雅　嗣	社会福祉法人　栄和会	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	③
高　島　裕　美	名寄市立大学	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	②
福　島　義　典	札幌光陽会　高齢者事業統括管理者 ヘルパーステーション　ふぁいと	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	③
河　合　宣　孝	せいとく介護こども福祉専門学校　学校長	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	ー
藤　井　一　磨	せいとく介護こども福祉専門学校 介護福祉科　学科長	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	ー
藤　田　留　美	せいとく介護こども福祉専門学校 こども福祉科　学科長	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	ー

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「ー」を記載してください。）

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針及び実習・演習等における企業等との連携内容

a.実習等又は演習の形態の授業で企業等連携を行っているか。	している
b.企業等と連携を行う際は、企業等との組織的な協定や契約を締結しているか。	している
c.企業等との連携内容を、連携先企業等との文書等で明示的に合意しているか（連携のマニュアル、手引き等定めているか）。	している
d.教育課程や学生の学修成果等に関する現状や情報、データを教育課程編成委員会の委員に提示しているか。	している
e.企業等の講師に対して事前打ち合わせや研修を行っているか。	している
f.企業等連携の実習・演習等の内容を学校側は適切に確認しているか（教員の見回り実施、実習日誌の作成等）。	している
g.企業等連携の実習・演習等における成績評価について、企業等と協議を行っているか。	している
h.適切な企業等連携の実習・演習となるよう、必要に応じて連携先企業等を見直しているか。	している

（特筆すべき工夫等）

（2）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	企業連携の方法	科目概要	連　携　企　業　等
保育実習Ⅱ	3.【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	実習園について理解を深め、安全および疾病予防への知識を身につける。子どもの観察や関わりを通して乳幼児の発達を理解する。生活や遊びの一部分を担当し、保育技術を習得する。職員間の役割分担とチームワーク、保育士としての倫理を具体的に学ぶ。保育士としての倫理を具体的に学ぶ。安全および疾病予防への知識を身につける。	白楊みどり保育園 あかつき篠路保育園　等 総数　8　園
保育実習Ⅲ	3.【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	児童福祉施設などにおける養護・支援を実践し、施設保育士としての必要な資質・能力・技術をする。家庭と地域との生活実態にふれて、児童家庭福祉、社会的養護に対する理解を元に、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。施設保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己課題を明確化する。	児童養護施設　柏葉荘 児童発達支援さぽてん　等 総数　4　施設

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）認定専門課程等の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教職員研修規程に則り、企業等と連携して、専攻分野における実務に関する研修や指導力の修得・向上のための研修等を教職員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務等に応じて受講させることを基本方針とする。

また、校長は計画的に受講させるために年間研修計画を策定し、①専攻分野における実務に関する研修等、あるいは ②指導力の修得・向上のための研修等を受講させる。

（2）研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：　令和8年度全国保育士養成セミナー　　連携企業等：全国保育士養成協議会

期間：　2026年8月26日～2026年8月27日　　対象：保育士養成校等教職員他

内容

1日目
・行政説明 「保育行政の動向と課題」
・基調講演 「保育士養成のこれからを考える」
・シンポジウム「繋ぎたい保育の原点－卒業までに育ってほしい10の姿－」
・情報交換会　特別講演（絵本ライブ）テーマ「絵本でこどもたちにつたえたいこと」
2日目
・分科会　4. 保育現場と養成校が共に考える保育実習－こどもまんなか、学生もまんなか－
・分科会　5. 社会的養護と保育士の役割」に参加
・分科会　9.「保育士養成における基礎的コミュニケーション力」

研修名：	北海道私立幼稚園教育研究大会道北ブロック旭川大会	連携企業等：	北海道私立幼稚園協会
期間：	2026年9月5日	対象：	養成校職員他
内容	・シンポジウム 「教育実習・就職の現状とこれからの在り方～幼稚園・養成校から見えているもの～」 ・基調講演 「子どもも大人も絵本で元気！」		

研修名：		連携企業等：	
期間：		対象：	
内容			

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	公開授業・オープン授業・研究授業	連携企業等：	
期間：	2026年4月～2027年2月（全教員対象）	対象：	全教員
内容	【経験5年未満の教員】年に1度授業指導案を作成して公開授業を行う。公開授業は授業検討会で教学マネジメント室とディスカッションを通じて授業スキルアップを図る。 【経験5年以上の教員】年に1度のオープン授業を行い、参観した教員から「授業参観シート」でフィードバックをもらい授業改善の参考とする。また、数年に1度、テーマを決めた研究授業を行う。全教員はこれらの授業参観を年3回以上行い、「授業参観シート」に参考になった点等をまとめそれを学科共有する。		

研修名：	令和8年M職研修	連携企業等：	PMC 株式会社マネジメントコンサルティング事業部
期間：	2026年9月8日	対象：	職位Mの教職員
内容	テーマ「考える力」「考え続ける習慣」（全４回） 第3回テーマ「チームを動かすリーダーシップとコミュニケーション力を高める」		

研修名：		連携企業等：	
期間：		対象：	
内容			

（3）研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：		連携企業等：	
期間：		対象：	
内容			

研修名：		連携企業等：	
期間：		対象：	
内容			

研修名：		連携企業等：	
期間：		対象：	
内容			

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	令和8年度冬季教職員研修会	連携企業等：	
期間：	2027年1月14日	対象：	教職員
内容	詳細未定		

研修名：	令和8年度春季教職員研修会	連携企業等：	
期間：	2027年3月26日	対象：	教職員
内容	詳細未定		

研修名：		連携企業等：	
期間：		対象：	
内容			

4.「当該専門課程等を置く専修学校において、学校教育法第百三十二条の二第二項の規定により評価を受け、その結果を公表していること。」関係

〇学校関係者評価

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	
（1）教育理念・目的・目標	
1　教育理念、目的及び目標の設定等	
①教育理念等を踏まえ、当該専門学校としての目的及び目標を明確に設定し、養成する人材像を明確にしていること。	同内容評価項目を設けている
（2）学校運営	
1　教育課程の編成と授業科目	
①学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な教育課程編成・実施方針を作成したうえで、教育課程を体系的に編成し、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置していること。	同内容評価項目を設けている
2　教育の実施	
①授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技など、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、成績評価基準に基づき成績評価を行っていること。	同内容評価項目を設けている
②企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位数の総授業単位数に占める割合を具体的に設定していること。	同内容評価項目を設けている
3　単位・卒業認定	
①学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針（資格・免許等を含む習得させる職業能力を含む）を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業の認定をしていること。	同内容評価項目を設けている
4　学修成果目標の達成状況	
①卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力を含む資質能力の修得（資格・免許等の取得や知識・技術・技能の修得を含む。）についての目標を定め、その目標が達成できていること。	同内容評価項目を設けている
②学生が望む進路の実現に関する目標を定め、その目標が達成できていること。	同内容評価項目を設けている
（3）学生の受入れ、学生支援	
1　学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理	
①入学者の受け入れ方針、入学選考基準、方法を定め、入学希望者に明示し、入学者の選考を公正に行い、合否を決定していること。	同内容評価項目を設けている
2　自主的な学習の促進に対する支援	
①学生の学力や学習状況を把握し、入学前教育や補習授業を行うなど学習支援に取組んでいること。学生の円滑な学習に向け、シラバスの活用による学習成果の向上や自主的な学習に関する適切な支援を行っていること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている
3　多様な学生に対する支援	
①適切な体制を構築し、障がいのある学生、海外からの留学生、社会人経験者など、多様な学生に対する支援を行っていること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている
4　学生生活に関する支援	
①カウンセラーの配置、相談室の設置など、学生の相談に対応するための環境整備を行い、適切に運営していること。	同内容評価項目を設けている
②留年者、退学希望者など学習の継続に困難な問題を抱える学生に対し適切な対応を行っていること。	同内容評価項目を設けている
③学校保健安全法に基づく学校保健計画を策定し、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用していること。　※簡易評価項目	同内容評価項目を設けている
④学生の経済的側面に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。※任意項目	同内容評価項目を設けている
⑤学生のキャリア支援、就職支援に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。	同内容評価項目を設けている

(4)教育実施組織・教員	
1　教員の配置、募集、採用	
①教育課程を実施するのに必要な、資格・要件を備えた教員を確保するために基準等(教員の採用基準等)を整備し、適正に運用していること。	同内容評価項目を設けている
②教員の常勤・非常勤、年齢構成等、また教員一人当たりの授業時数等を把握していること。また、教員の専門性、教授力を把握、評価していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
2　教員の組織編制等	
①学校の目的に応じた分野の区分ごとに必要な教員組織を整備し、業務分担、責任体制を規程等で定めていること。	同内容評価項目を設けている
②教員間で連携、協力体制を構築していること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている
3　教員の資質の向上	
①学校の教育活動の改善、工夫を行うFD(Faculty Development)などの取組や、教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	同内容評価項目を設けている
②特に職業実践専門課程においては、企業等と連携して組織的に行っていること。	同内容評価項目を設けている
③教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的に行っていること。	同内容評価項目を設けている
(5)教育環境	
1　教育環境の整備	
①教育上の必要性に対応できる施設・設備、機械器具等を備えていること。	同内容評価項目を設けている
②学生の学習支援のための施設(自習室等)を整備していること。また、学生の休憩、食事のためのスペースを確保していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
③図書室を設置し、専攻分野の教育に必要な専門書及び参考図書を配架し、必要に応じて学生が閲覧できるようにしていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
2　安全対策、防災組織	
①学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、学校における安全対策を適切に行っていること。	同内容評価項目を設けている
②火災の発生や防災に関する組織体制を整備し、適切に運営していること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている
3　施設・設備等の点検、改善等	
①施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等を適切に行っていること。※任意項目	同内容評価項目を設けている
②施設の改築・改修、設備の更新等の計画を定め、適切に実施していること。※任意項目	同内容評価項目を設けている
(6)教育活動の基盤と改善・向上の取組	
1　中期事業計画と財務基盤	
①当該専修学校が策定している中長期的計画に、教育目的、教育目標の実現に向けた具体的な内容が位置付けられていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
②当該専修学校の教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立していること。	同内容評価項目を設けている
2　学校運営	
①学校運営の組織体制を整備し、適切な運営が行われていること(職業教育に関するマネジメント(教育の企画・設計・運営等)における責任体制を含む。)。	同内容評価項目を設けている
3　学校評価の実施と改善活動	
①学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会等外部からの意見を反映するなど、関連企業等団体、地域社会等からの意見を当該専修学校の運営やその改善・向上において活用していること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている
②特に職業実践専門課程においては、教育課程編成委員会を年2回以上開催していること。	同内容評価項目を設けている
③学校評価を実施し結果及び改善状況についての情報を公表していること。	同内容評価項目を設けている
④学校評価の結果に基づく改善への取組を組織的かつ継続的に行っていること。	同内容評価項目を設けている
4　社会からの理解と情報の公表	
①当該専修学校の教育活動、学修成果、学校運営等の状況に関する情報を積極的に公表していること。	同内容評価項目を設けている
②教育目的・目標の達成状況や活動状況について関連する教育機関、産業界等をはじめ、社会全体からの理解を得るよう取組んでいること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている

（3）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和8年10月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
青　木　孝　志	生活介護事業所　ゆめくる	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	企業等委員
岸　本　隆　美	社会福祉法人札幌シニア福祉機構	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	企業等委員 卒業生
柴　野　邦　子	光星はとポッポ保育園	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	企業等委員
瀬　戸　雅　嗣	社会福祉法人　栄和会	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

情報提供方法	ホームページ	「その他」の場合	ー
公表URL	https://nishino-g.ac.jp/about/johokokai/		
公表時期	令和8年10月31日		

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）情報提供

情報提供方法	ホームページ	「その他」の場合	ー
公表URL	https://nishino-g.ac.jp/about/johokokai/		
公表時期	令和8年10月31日		

授業科目等の概要

	（専門課程　こども福祉科）															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			憲法	国家の根本法である憲法に定める国家の組織・作用および基本的人権について、総合的な知識の習得を目指すとともに、主権の担い手である国民として、現実に発生するあらゆる政治的諸問題に関心を持ち、自分なりの判断ができるように、人権の存在意義や我が国の政治のあり方について理解を深める。	1	2	○			○			○	
2	○			こども学概論	こどもとは・・・どのような存在なのか、こどもを取り巻く環境と併せて考える。また、こどもの健やかな育ちを願い、こどもの発達を遊び・環境を通して理解する。その上で、発達にあった遊びや環境構成を実際に考え、実践することで、指導力を身につける。	2	2	○			○		○		
3	○			こどもの指導法「音楽表現Ⅲ」	模擬保育の計画・実践を通して、様々な音楽表現活動の具体的な指導方法を学ぶとともに、指導案の討議を行い保育活動の音楽表現による構成についての理解を深める。また、小学校の教科「音楽」への学びの連続性について学ぶ。	2	1		○		○			○	
4	○			環境論	子どもを取り巻く具体的な環境・を示しながら、それらと子どもの発達の関係性を考える。また、環境を通して行う保育の意味をしっかり学習し、保育者自身が保育環境をデザインする力を身につけるために、様々な環境との出会いに気づき、その意味を理解できるように深く学ぶ。	2	1	○			○			○	
5	○			造形表現論	幼児造形の指導・援助者として求められる形や色等の造形の理論をもとに、えがく表現、つくる表現そして造形あそびの領域と技法について学習する。また、それに伴った材料、用具の特性と利用について理解していく。さらに美術の歴史的展開の概説及び乳幼児造形教育の課題を学ぶ。	1	1		○		○			○	
6			○	健康論	乳幼児の運動発達における大人との相違について映像資料や事例を活用し、乳幼児期において多様な動きを獲得していくことの意義と重要性を理解できるようにする。また、乳幼児の子どもたちの健康に関する知識と発育・発達について学ぶ。	2	1		○		○			○	

7	○			こどもとリズム表現Ⅱ	卒業研究のオープニングスタッフの役割を担い、表現する力を養い発表に繋げる。保育者の役割を理解し、計画性をもちながら行事を作り上げていく課程を学んでいく。	1	1		○		○		○		
8	○			こどもとリズム表現Ⅲ	保育に携わる者として、子どもと一緒に表現する喜びや楽しさを知っていく必要がある。まずあ保育者自身が表現者として子どもに楽しさを伝えなくてはならない。その経験を重ねる授業である。	2	2		○		○			○	
9	○			幼児造形	保育実習に向けて取り扱う造形活動の教材についての必要な知識や技術を学び、さらに造形の材料・用具の扱いなど実技を通して体験的に学習する。	2	1		○		○			○	
10	○			こどもと音楽表現Ⅳ	様々な表現活動ができるように技術の向上を目指す。ピアノで弾ける曲のレパートリーを増やし伴奏としてのピアノの技術を学ぶ。歌うこと、楽器を演奏することを通して音楽の楽しさを感じ、保育の中に活かしてどのように発展させていくか考えながら技術を学ぶ。	2	1		○		○			○	
11		○		保育実習ⅡＡ	実習園について理解を深め、安全および疾病予防への知識を身につける。子どもの観察や関わりを通して乳幼児の発達を理解する。生活や遊びの一部分を担当し、保育技術を習得する。職員間の役割分担とチームワーク、保育士としての倫理を具体的に学ぶ。保育士としての倫理を具体的に学ぶ。安全および疾病予防への知識を身につける。（保育士・幼稚園教諭コースのみ開講　保育実習ⅢＡとのいずれかを選択）	2	2			○	○		○		
12		○		保育実習ⅡＢ	実習園について理解を深め、安全および疾病予防への知識を身につける。子どもの観察や関わりを通して乳幼児の発達を理解する。生活や遊びの一部分を担当し、保育技術を習得する。職員間の役割分担とチームワーク、保育士としての倫理を具体的に学ぶ。保育士としての倫理を具体的に学ぶ。安全および疾病予防への知識を身につける。（保育士コースのみ開講　保育実習ⅢＢとのいずれかを選択））	2	3			○	○		○		
13		○		保育実習ⅢＡ	児童福祉施設などにおける養護・支援を実践し、施設保育士としての必要な資質・能力・技術をする。家庭と地域との生活実態にふれて、児童家庭福祉、社会的養護に対する理解を元に、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。施設保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己課題を明確化する。（保育士・幼稚園教諭コースのみ開講　保育実習ⅡＡとのいずれかと選択）	2	2			○	○		○		

14		○		保育実習Ⅲ Ｂ	児童福祉施設などにおける養護・支援を実践し、施設保育士としての必要な資質・能力・技術をする。家庭と地域との生活実態にふれて、児童家庭福祉、社会的養護に対する理解を元に、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。施設保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己課題を明確化する。（保育士コースのみ開講　保育実習ⅡＢとのいずれかを選択）	2	3			○	○		○		
15		○		保育実習指導Ⅱ	事前指導においいては保育実習Ⅱで取り組む実習内容を把握し、自らの実習課題を明確にするとともに、保育実習Ⅰや既習の教科目の内容およびその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。事後指導においては、実習での体験のまとめを行い、事後の学習への課題を明確にする。（保育実習指導Ⅲとのいずれかを選択）	2	1		○		○		○		
16		○		保育実習指導Ⅲ	事前指導においては、保育実習Ⅲで取り組む実習内容を把握し、自らの実習課題を明確にするとともに、保育実習Ⅰや既習の教科目の内容およびその関連性を踏まえ、支援の実践力を習得する。事後指導においては、実習での体験のまとめを行い、事後の学習への課題を明確にする。（保育実習指導Ⅱとのいずれかを選択）	2	1		○		○		○		
17	○			教育方法論	初等中等教育（小学校・中学校を中心とする）と幼児教育（幼稚園、保育園）を対象として、その中で行われる教育の方法・内容についての理論的かつ実践的な理解を深める。	1	2	○			○			○	
18		○		教育実習 （保育士・幼稚園教諭コース）	幼児の観察や関わりを通して、幼児への理解を深める。 幼稚園教諭の専門性と職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。 幼稚園教諭としての自己の課題を明確化する。 （保育士コース未開講）	2	4			○	○		○		
19			○	幼児教育実践	うた、リズム運動、手遊び、絵本読み、制作活動等、幼児教育現場において求められる技術について、実践を通して学ぶ。 （保育士コース未開講）	2	9		○		○		○		
20	○			教育実習事前・事後指導 （保育士・幼稚園教諭コース）	幼児教育の基礎理論・技能を学ぶ。 教職の専門的知識や技術を学習し、教育現場で応用し得る力を要請する。 保育者としての自覚や使命感を身につける。 （保育士コース未開講）	1	1		○		○			○	
21	○			卒業研究	2年間学んだことを生かし、総合的な創造力・表現力を身につけるとともに、表現することを通して、保育者としての指導力を養う。	2	2		○		○		○		

22	○			保育制作Ⅰ	保育教材の目的やねらいを理解する。保育教材を作成するにあたって基本的な技術や知識を習得し、制作方法を身につけていく。完成品をどのように表現、応用、展開するかを子どもの姿を想像しながら計画し実践する。	1	2		○		○		○		
23	○			保育制作Ⅱ	保育教材の目的やねらいを理解し、子どもと一緒に楽しむことができるような保育教材を計画し作成する。これまでの学びや実習での経験を生かし子どもの姿をイメージしながら表現・応用・展開し実践を行う。	2	1		○		○		○		
24	○			音楽表現論	保育内容を理解し、日々の活動に音楽を活かすために必要な基礎的な理解や技術を学ぶ。 音楽の楽しさを子どもたちと共有できるような基礎力を学ぶ。	1	1		○		○			○	
25	○			こどもと体育	乳幼児期における運動遊びの意義を理解し、乳幼児の発達に応じて、多様な動きを経験させることができる「運動遊び」の指導方法を身につける。	2	1		○		○		○		
26	○			障害者支援論	障害とは？何かを知ってもらう。障害を持った方々は特別ではなく、自分たちと変わらず生活している中で、人と人との関りであることを学んでもらう。	2	1		○		○			○	
27	○			保育実習対策Ⅰ（施設）	体験実習の重要性を理解し、学校で学んだ知識・技術を具体的に実践場面で活かすための態度や姿勢を身につけ、実習準備を行う。実習における実践学習をフィードバックし、その後の学習につなげるためのまとめを行う。	1	1		○		○		○		
28	○			保育実習対策Ⅰ（保育所）	体験実習の重要性を理解し、学校で学んだ知識技術を具体的に実践場面で活かすための態度や姿勢を理解し。実習準備を行う。実習の振り返りを通して今後の学習につなげ、自己課題を明確にする。	1	1		○		○		○		
29	○			保育実習対策Ⅱ	実習を円滑に進めていくための知識や技術の習得をするとともに実習内容・実習課題を明確にする。実習を通して培った保育士としての資質・能力・技術を踏まえて、自己の課題を明確化させる。	2	1		○		○		○		
30	○			教育実習対策Ⅰ	教育実習の意義を理解し、実習への意欲・期待を高める。幼稚園教諭・保育教諭として必要な資質を高め、実習に向かう目標や課題を明確にする。	1	1		○		○		○		
31	○			教育実習対策Ⅱ（保育士・幼稚園教諭コース）	実習に向けての目標・課題を明確にし、幼稚園教諭・認定こども園保育教諭を目指す意欲を高める。幼稚園教諭・保育教諭として必要な資質を高め、保育を計画構築し、実践する力を身につける。実習での学びを振り返り、課題意識・行動計画を考える。 （保育士コース未開講）	2	1		○		○		○		

32	○			卒業研究Ⅱ	２年間で学んだことを活かし、総合的な創造力・表現力を身につけるとともに、表現することを通して、保育者としての指導力を養う。	2後	2		○		○		○		
33	○			卒業研究Ⅲ	２年間で学んだことを生かし、総合的な創造力、表現力として発揮するとともに、保育者としての指導力を養う。さらにチームとして協力し合い、作品を作り上げる達成感を味わう。	2後	2		○		○		○		
34	○			こども音楽表現Ⅴ（保育士・幼稚園教諭コース）	保育の中には音楽を使った活動があります。表現活動をするためには器楽演奏やピアノの弾き歌いなどの技術が必要となる。ピアノ実技を中心に音楽に必要とされる基本的な知識と技術を学ぶ。	1後	1		○		○			○	
35	○			こども音楽表現Ⅵ（保育士コース）	様々な表現活動ができるように技術の向上を目指す。曲のレパートリーを増やし就職に向けて歌の伴奏としてのピアノの技術を学ぶ。グループでうたを歌ったり、楽器演奏をとおして音楽の楽しさを感じ、保育の中に活かしどのように発展させていくか学ぶ。	2後	1		○		○			○	
36	○			児童館・放課後児童クラブの機能と運営（保育士コース）	近年地域社会において、児童が遊びや集団活動をする安全で適切な「居場所」が少なくなってきている。授業では、こどもに健全な遊びを与えて、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とする児童福祉施設である児童館の歴史、目的、役割、現状と課題を学ぶ。 （保育士コース必修）	1	2	○			○			○	
37	○			児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法Ⅰ（保育士コース）	児童厚生員にとって、ソーシャル・ワークをベースとした児童館・放課後児童クラブの活動や行事の企画、利用者への対応、地域とのかかわりなどについて学ぶことは必要不可欠となる。実習に向けて、児童館・放課後児童クラブの活動を理解するとともに実習現場で活用できる実践活動を学ぶ。	2	2		○		○			○	
38	○			児童館実習（保育士コース）	実習を通し、児童館の役割や支援の実際、児童厚生員の職務について学ぶ。子どもたちとの遊びやふれあいを通し、子どもの発達における「遊び」の大切さを知り、遊びを支援する時に求められる視点と技術を学ぶ。様々な子どもや家庭とのかかわりを通し、コミュニケーションの方法や臨機応変な対応の方法を学び、子どもや保護者、地域のニーズ、支援について学ぶ。 （保育士コース必修）	2	2			○		○	○		

39	○			手話Ⅰ	聴覚障害者の言語である「手話」の基本を学ぶ。外見では分かりにくい聴覚障害についての理解を深めながら、実際に聴覚障害者と接した時に適切な対応ができ、且つ積極的なコミュニケーションをとるための方法を学ぶ。	1	1		○		○			○	
40	○			手話Ⅱ	聴覚障害者の言語である「手話」の基本を学ぶ。聴覚障害についての基礎知識と自己紹介や日常生活などの身近な話題に関する手話表現を学びながら、更にコミュニケーション意欲を高める。	2	1		○		○			○	
41	○			体育	身体活動を通して、心身の健康保持の大切さを知る。体力の向上とともに、公正・協力・責任などの態度を養う。生涯を通して、生活を豊かにするために、スポーツに親しむ能力を養う。	2	1		○		○		○		
42	○			環境Ⅱ	身近な自然環境についての知識を身につけ、子どもたちの自然への興味や関心を引き出す環境づくりを行う力を身につける。	2	2		○		○			○	
43	○			教育実習対策Ⅲ	実習に向けての目標・課題を明確にし、幼稚園教諭・認定こども園保育教諭を目指す意欲を高める。幼稚園教諭・保育教諭として必要な資質を高め、保育を計画・構築し、実践する力を身につける。実習での学びを振り返り、課題意識・行動計画を考える。	2	1		○		○			○	
44	○			児童館実習指導（保育士コース）	実習に向けて、児童館・放課後児童クラブの機能と役割、職員の業務内容、子どもの活動内容についての事前学習を行い、実習目標の設定につなげる。実習で学び得たことを整理し、地域の子どもたちの居場所や集団についての理解を深める。	2	1		○		○		○		
45	○			幼児体育指導者	幼児・児童に対し、安全で楽しい体育指導実践の基礎を取得する。運動や遊びのレパートリを増やす。	1	1		○		○			○	
合計					81 科目				114 単位							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	本校所定の修業年限以上在学し、課程を修了した者に卒業証書を授	１学年の学期区分	2 期
履修方法：	教育課程のすべての授業科目を履修しなければならない。この履修	１学期の授業期間	21 週